

令和4年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

○新しい価値と可能性を追求する教育を実践し、多様性を尊重し自立できる子どもを育てる

【学校 目標】

○子ども一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、子どもたちが進んで学びを追求していけるよう、授業づくりを推進する。

【現状と課題】

○視点1 授業において、「めあての提示」「振り返り」の実施を全職員で意識して進めようとしている。教師側の意識がかたまってきたので、子どもたちがより学びを実感できるように、子どもたちの力を高めていきたい。
 ○視点2 校内研究を進める中で、子どもたちの自発的・自治的な活動を支援するために、始まりから終わりまでの見通しが持てるような掲示物・板書の工夫や、学習流れを固定化するなど、児童にとっても教師にとっても、学びがよい・やりがいのある授業づくりを進めたい。
 ○視点3 本校は全学級が単級となっており、学級経営や生徒指導、教科指導等の全職員で協力しながら一丸となって取り組んでいる。それぞれの教員が学年に関わらず研鑽し合い、高め合って、学校づくりに取り組んでいきたい。

取組事項および評価指標

※評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①藤尾の授業スタンダードを提案し、全クラスで、どの授業でも実行する。 ②基礎基本を徹底する。	①学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善（市学校教育評価）		
	②「授業の中で目標が示されていたと思いますか」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」【児童生徒向け学びのアンケート(県)】		
	③児童アンケート(校内研究)		

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①子どもたちが進んで学びを追求していけるよう、授業づくりを推進する。 ②自己肯定感や自己存在感を感じさせる実践を充実させる。	①協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善		
	②支持的風土を育てる学校、学級集団づくりの実践(市学校教育評価)		
	③全国学力学習状況調査(質問紙)、生活アンケート等		

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①学校全教育活動の中で、本校の重点項目を意識して進める。 ②OJT研修を充実させることで、若手教員の指導力向上を目指す。さらに、研修に学校全体で取り組む中で、教員全体の指導力向上を目指す。	①生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの崇徳の実践力を育てる活動の実施(市学校教育評価)		
	②支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践(市学校教育評価)		
	③教員アンケート(校内研究)		

◇4月の職員会議、5月校内研究全体会、週1回の打ち合わせ等で共通理解を図りながら次のような実践を進める。
 ・毎朝15分間のチャレンジタイム(読書・国語・算数)、学力補充教室(年に3回7月、12月、2月実施予定)、並びに家庭学習(宿題や自主学習)等を通して、基礎基本の徹底を行う。
 ・校内研究を進める中で、藤尾スタンダード(めあての提示・ふりかえりの工夫)に意識して取り組み、子どもたちが「わかった」「できた」「楽しかった」を味わえる授業づくりを進める。各学年で年に一回授業公開を設定し、研究を進める。
 ・皇子山中学校区の5つの約束を徹底して取り組み、規範意識を高める。月ごとの目標を提示したり、校内放送で呼びかけたりしていくなどして自ら進んで実践できるような取組を推進する。
 ・互いの考えを尊重し、合意形成できる学習集団の育成や、子ども一人ひとりが自己肯定感や自己存在感を感じさせる実践を充実させる。また、支持的風土を高める。(毎月の全校集会、人権週間の取り組み、いじめ防止啓発月間の取り組み、毎月のあいうえおアンケート等を通して)
 ・iPad、eラーニングなどのICTを活用した授業づくりを行う。また社会人活用の派遣を受け、総合的な学習の時間の年間計画にプログラミング教育や情報リテラシーの内容を位置付け、活動内容の精選の取組を進めるとともに、検討を重ねながら、プログラミング学習の充実を図る。
 ・OJT推進リーダーを中心として年間30時間程度の研修に組み込み、若手教員の指導力向上を目指す。また定期的な職員研修を行い教員全体の指導力向上に努める。

今年度の取組の成果と課題

--

